

# 蔵王町学校施設長寿命化計画



蔵王町立平沢小学校

蔵王町教育委員会 教育総務課

令和2年3月

## 目次

1	計画の概要	
1-1	計画の背景・目的	1
1-2	計画の位置づけ	2
1-3	計画期間	3
1-4	対象施設	3
2	学校施設の目指すべき姿	
2-1	学習活動への適応	4
2-2	安全性	4
2-3	小中学校の統廃合	4
3	学校施設の実態	
3-1	児童・生徒の推移	5
3-2	施設の保有状況	7
3-3	施設関連経費の推移	9
3-4	今後の維持・更新コスト（従来型）	10
3-5	老朽化状況の実態	11
3-6	今後の維持・更新コスト（長寿命型）	14
4	学校施設整備の基本的な方針	
4-1	整備に係る基本的な各方針	15
4-2	基本的な方針を踏まえた施設整備の水準	17
5	長寿命化の実施計画	
5-1	改修等の優先順位付けと実施計画	19
5-2	長寿命化による効果	20
6	長寿命化計画の継続的な運用方針	
6-1	施設情報の一元管理と共有化	21
6-2	推進体制の整備	21
6-3	フォローアップ	21

---

# 1 計画の概要

## 1-1 計画の背景・目的

本町は、明治22年の市町村制の施行により発足した宮村と円田村が、終戦10年後の昭和30年4月1日に合併し、「蔵王町」として誕生しました。地理的条件は宮城県南西部に位置し、仙台市から南西30km圏、東に村田町と大河原町、北は川崎町、南は白石市、西は七ヶ宿町と山形県上山市に接しており、東西23km、南北13km面積152.83km<sup>2</sup>の長細い地形です。農業では特に果樹栽培が盛んで、生産高県内一を誇り、近年では海外まで輸出されています。蔵王エコーラインの入口遠刈田温泉は湯治・登山客で古い歴史があり、みやぎ蔵王えぼしリゾートの開発に伴いホテル・ペンション別荘が建ち並び、名実ともにリゾート化しています。四季を通じて観光客を始め、登山客・スキー客等絶えることなく、蔵王は山岳信仰の山としても古くから知られています。

このような中、地域の実態・特性などに応じ学校教育の充実を推進するため学校施設のインフラ整備を行ってきました。しかし、こうした施設も老朽化が進んでおり、大規模改修や建て替えを行わなければ安心して使用できなくなる可能性があり、厳しい財源状況に加えて、今後さらに厳しさを増すと考えられる地方交付税環境を鑑みると全ての施設を維持及び更新することは困難な状況にあります。

国においては、インフラ長寿命化計画を策定するとともに、地方に対しても公共施設総合管理計画の策定にあたっての方針を示すなど、公共施設に求められる安全機能を今後も確保していくための支援を実施しています。

本町においては、安全・安心で快適な公共施設等の提供を実現するため、平成29年2月に蔵王町公共施設等総合管理計画を策定しています。本計画は、その個別計画に位置づけして、町内の学校施設を対象に、基本的な方針に基づく実際の整備内容や時期、費用等を具体的に示す「蔵王町学校施設長寿命化計画」として策定します。

---

## 1-2 計画の位置づけ

蔵王町公共施設等総合管理計画を上位計画とし、学校施設等の教育施設を対象に管理計画を定めます。

インフラ長寿命化基本計画  
(基本計画)【国】



蔵王町公共施設等総合管理計画  
(行動計画)【地方】



蔵王町学校施設長寿命化計画  
(個別計画)

本計画は、蔵王町公共施設等総合管理計画のうち、教育委員会で所管する学校施設に対する個別計画とします。

---

### 1-3 計画期間

本計画は、令和元年度（2019年度）から令和40年度（2058年度）までの40年間を整備保全計画期間とします。実施実行については、PDCAサイクルを活用し、施設の老朽化状況等の実態を継続的に把握しながら、取組内容の検証、改善を行います。

また、本計画の見直しは基本的に5年ごととしますが、財政状況やその他必要に応じて適宜行うこととします。

### 1-4 対象施設

本計画における対象施設を以下に示します。中学校については、令和9年度に新たに統合中学校を開校する計画が進行中であるため、対象外としています。その他、倉庫等小規模な建物についても対象外とします。

対象学校施設
1 円田小学校（校舎、体育館、プール）
2 平沢小学校（校舎、体育館、プール）
3 永野小学校（校舎、特別実習棟、体育館、プール）
4 宮小学校（校舎、体育館、プール）
5 遠刈田小学校（校舎、特別実習棟、体育館、プール）
6 学校給食共同調理場

---

## 2 学校施設の目指すべき姿

### 2-1 学習活動への適応

文部科学省の施設整備指針では、教育内容・教育方法の変化などに対応して、多様な学習内容・学習形態やICTを日常的に活用できる高機能かつ多機能な学習環境を確保し、学校教育の進展や情報技術の進展等に長期にわたり対応することのできるような柔軟な計画とすることが重要であるとされています。また、児童生徒の学習及び生活の場として、教職員の働く場として良好な環境を確保し、特別の支援を必要とする児童一人ひとりの教育的ニーズを把握し、かつ安全・防犯への対応、さらには環境負荷の低減や、自然との共生等を考慮した施設づくりを行うことが必要とされています。

本町においては、令和元年度に学習環境の向上のため各小中学校の普通教室にエアコンを設置しました。また平成26年度には、環境教育の推進及び省エネ対策として永野小学校と宮中学校に太陽光発電設備を設置したほか、各小中学校の照明をLED型照明に改修しております。今後も、上記を念頭に置きつつ可能な範囲で環境に配慮した計画を検討し、学習環境の改善を推進していきます。

### 2-2 安全性

蔵王町の学校施設は、地震や土砂崩れ等災害時の指定避難所に指定されております。また、積雪期の蔵王山に爆発的な噴火が起きた際に想定している融雪型火山泥流の発生時にも一部の学校施設が避難場所となります。

学校施設においては、校舎及び体育館の耐震診断を平成16年度から平成18年度にかけて実施し、耐震性が低い建物については耐震改修工事によって全て耐震化への対応を完了しております。

今後も児童生徒が安全・安心に学ぶことのできる施設整備を進めるとともに、災害時には避難所として活用できるよう防災機能を備えていきます。

### 2-3 小中学校の統廃合

本町は、少子化により小中学校の学校運営や教育活動に課題を生じております。そのため、学校施設の適正規模・適正配置を行う取組みとして、現在3校ある中学校を第五次蔵王町長期総合計画の期間内に統合し、新たな中学校を新設します。小学校については、今後、再編実施計画策定委員会等により、再編、統合、存続等、具体的な計画を策定します。

### 3 学校施設の実態

#### 3-1 児童・生徒の推移

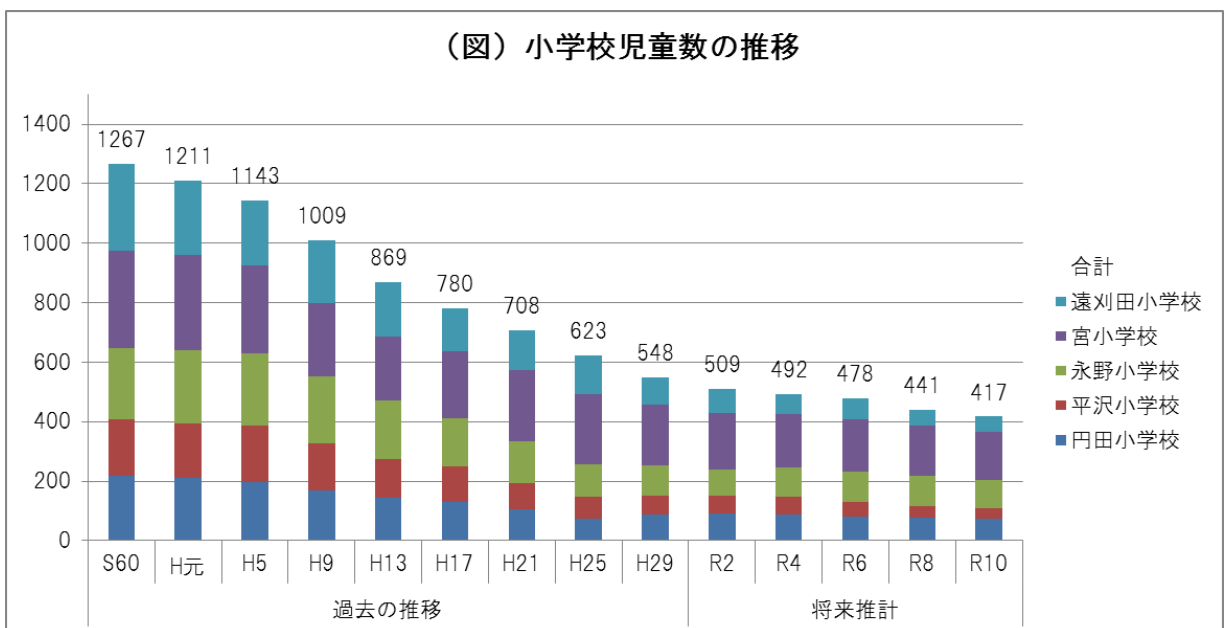
##### (1) 小学校児童数の推移

小学校の児童数は、令和元年5月1日現在524人です。年々減少を続けており、昭和60年の1,267人と比較すると約4割減少しています。

将来の推計は、今後も緩やかに減少していくことが予想されます。

単位（人）

	過去の推移									将来推計				
	S60	H元	H5	H9	H13	H17	H21	H25	H29	R2	R4	R6	R8	R10
円田小学校	219	209	198	168	143	128	104	75	89	91	87	81	78	74
平沢小学校	190	184	187	157	130	123	89	73	61	59	59	50	38	36
永野小学校	239	247	244	228	197	159	141	109	102	89	100	102	101	95
宮小学校	326	320	295	245	216	226	238	234	205	191	178	176	168	160
遠刈田小学校	293	251	219	211	183	144	136	132	91	79	68	69	56	52
合計	1267	1211	1143	1009	869	780	708	623	548	509	492	478	441	417



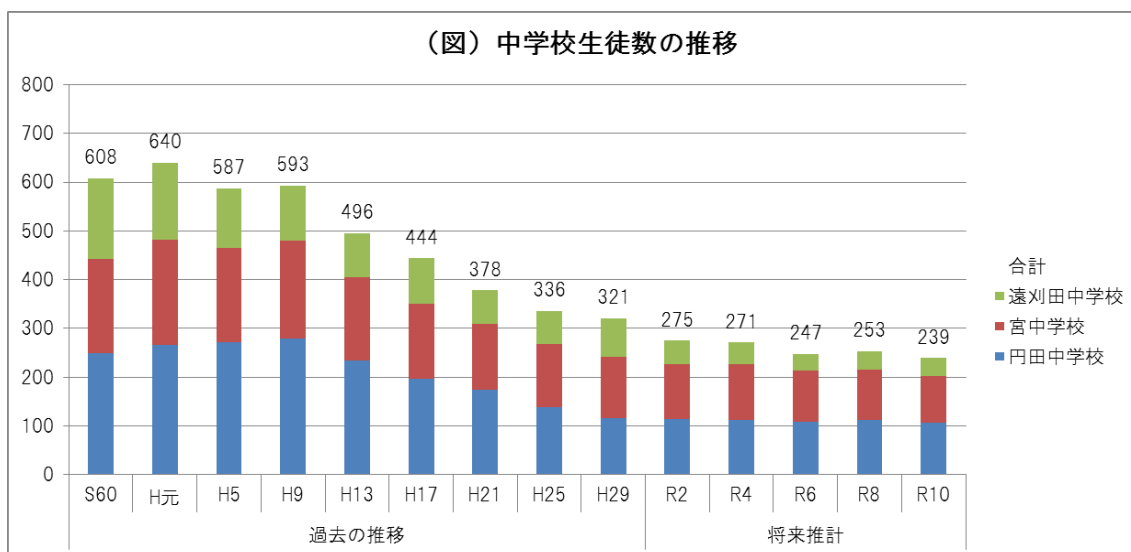
(2) 中学校生徒数の推移

中学校の生徒数は、令和元年5月1日現在282人です。年々減少を続けており、昭和60年の608人と比較すると約半数となっています。

将来の推計は、僅かな増減を繰り返しつつも、緩やかに減少していくことが予想されます。

単位 (人)

	過去の推移									将来推計				
	S60	H元	H5	H9	H13	H17	H21	H25	H29	R2	R4	R6	R8	R10
円田中学校	250	267	272	280	235	197	174	138	117	114	113	108	112	106
宮中学校	193	215	193	201	171	153	135	131	125	112	114	106	103	97
遠刈田中学校	165	158	122	112	90	94	69	67	79	49	44	33	38	36
合計	608	640	587	593	496	444	378	336	321	275	271	247	253	239





---

## 3-2 施設の保有状況

### (1) 学校施設

本町には、小学校5校、中学校3校、共同調理場1棟の学校施設があります。小学校全体の延床面積は15,393㎡、中学校は11,736㎡、調理場569㎡、全ての学校を合わせた延床面積は27,698㎡となります。これら学校施設は、本町が保有する公共施設の中で最も多く、保有量全体の約4割を占めています。

名称		住所			令和元年5月1日現在		
棟	構造	延床面積(m <sup>2</sup> )	建築年度	児童生徒数	学級数		
円田小学校		蔵王町大字円田字堀の内28番地			90(1)	7	
校舎	RC	1,998m <sup>2</sup>	S45				
体育館	S	560m <sup>2</sup>	S50				
プール	W	76m <sup>2</sup>	S51				
平沢小学校		蔵王町大字平沢字台屋敷62番地			64(2)	7	
校舎	RC	1,694m <sup>2</sup>	S43				
体育館	S	540m <sup>2</sup>	S51				
プール	W	62m <sup>2</sup>	S47				
永野小学校		蔵王町大字円田字北浦16番地			100(2)	8	
校舎	RC	1,912m <sup>2</sup>	S46				
特別実習棟	RC	703m <sup>2</sup>	H3				
体育館	S	1,201m <sup>2</sup>	H3				
プール	W	70m <sup>2</sup>	S50				
宮小学校		蔵王町宮字井戸井33番地			191(0)	7	
校舎	RC	2,391m <sup>2</sup>	S48				
体育館	S	964m <sup>2</sup>	S61				
プール	W	72m <sup>2</sup>	S51				
遠刈田小学校		蔵王町遠刈田温泉字小妻坂山25番地			79(3)	7	
校舎	RC	1,419m <sup>2</sup>	S35				
特別実習棟	RC	1,068m <sup>2</sup>	S56				
体育館	S	585m <sup>2</sup>	S42				
プール	W	76m <sup>2</sup>	S54				
円田中学校		蔵王町大字平沢字伊原沢下23番地			104(3)	5	
校舎	RC	3,383m <sup>2</sup>	S54				
体育館	S	1,148m <sup>2</sup>	S58				
プール	W	75m <sup>2</sup>	S48				
宮中学校		蔵王町宮字馬飼16番地			117(4)	6	
校舎	RC	2,721m <sup>2</sup>	S56				
体育館	S	699m <sup>2</sup>	S44				
プール	W	73m <sup>2</sup>	S49				
遠刈田中学校		蔵王町遠刈田温泉字小妻坂山16番地			61(5)	5	
校舎	RC	2,747m <sup>2</sup>	S57				
体育館	S	828m <sup>2</sup>	S55				
プール	W	62m <sup>2</sup>	S44				
学校給食共同調理場		蔵王町大字円田中田96番地					
調理場	RC	569m <sup>2</sup>	S60				

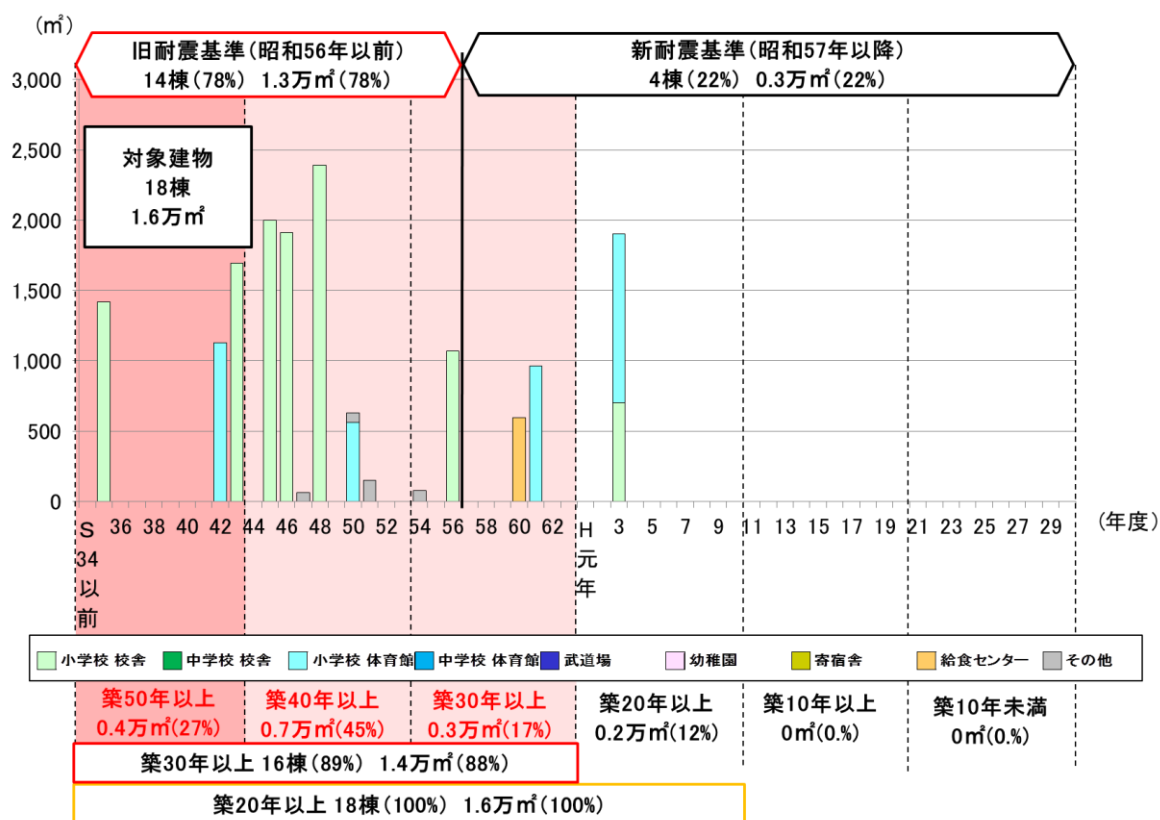
※ ( ) は特別支援学級児童生徒内数

## (2) 築年別整備状況

本計画対象の学校施設は、築40年以上の建物が10棟となっており老朽化が進んでいます。それ以外の建物についても数年後には老朽化の対策が必要になります。築50年以上の建物は4棟ありますが、適切な時期に改修工事を実施していた効果があり、築年数相当の緊急に対処しなければならない状態には至っていません。

上記を踏まえ、長寿命化による対応の可能性を検討する必要があると考えます。

### 築年別整備状況

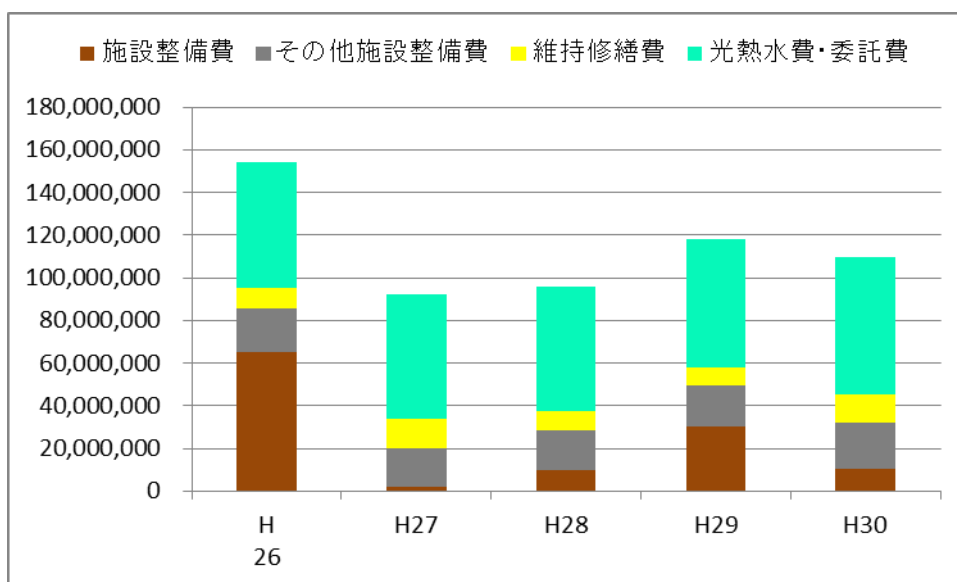


### 3-3 施設関連経費の推移

本計画対象の各小学校施設及び共同調理場の直近5年間の施設関連経費は、平成26年度に宮小学校外壁等改修工事と、永野小学校太陽光発電設備工事、平成29年度に宮小学校エアコン設置工事と、永野小学校屋上等防水工事を行ったことにより、施設整備費が大きくなっています。その他の施設整備費や光熱水費等は均一的で、年度毎に大きな差はありません。

単位（円）

	H26	H27	H28	H29	H30
施設整備費	65,486,880	1,890,000	9,863,640	30,522,820	10,681,200
その他施設整備費	20,307,680	18,373,088	18,361,859	19,148,572	21,216,866
維持修繕費	9,376,359	13,814,234	9,432,647	8,175,498	13,349,167
光熱水費・委託費	59,084,661	58,001,723	58,086,510	60,089,658	64,283,533
合計	154,255,580	92,079,045	95,744,656	117,936,548	109,530,766



### 3-4 今後の維持・更新コスト（従来型）

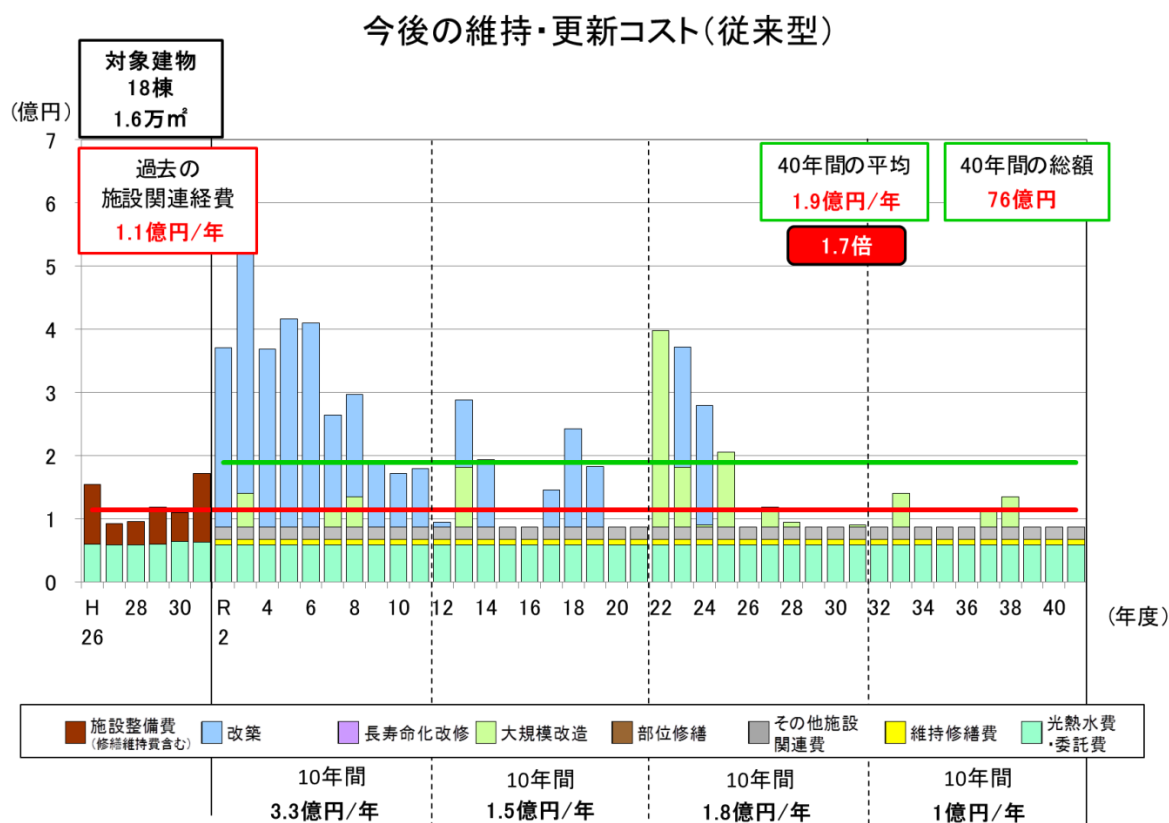
改築と大規模改造による従来型管理を行った場合の今後40年間の維持・改築コストを試算します。

そのコストは総額76億円となり、特に直近10年間は、改築時期の学校施設が多数あり、平均すると1年間に3.3億円という多額の費用がかかる計算になります。

（試算条件）

- ・改築周期は、蔵王町公共施設等総合管理計画と同じく50年とします。その他、試算に必要な条件は以下のとおりとします。

工種	周期	建替・修繕期間	学校施設
改築	50年	3年	199,700円/㎡
大規模改造	20年	1年	49,900円/㎡



---

### 3-5 老朽化状況の実態

#### (1) 老朽化状況の把握

老朽化状況は、躯体の健全度調査と躯体以外の劣化状況調査の2つに分けて状態を把握・評価します。

躯体の健全性は、計画段階においては、各学校で耐震補強工事を行う判断をするために実施した耐震診断時のデータから簡易診断を行います。躯体以外の劣化状況は、現地調査により健全度の評価を行い、工事優先度の順位付けや保全方針の見直しを行います。

#### (2) 躯体の健全性調査方法

建築物を長期間使用する前提条件は、躯体の健全性が確保できていることですが、同じ年数でも建築当時の施工状況やその後の維持管理、立地条件によって状態が異なります。

長寿命化の実施方針を立てるには、施設毎に躯体の健全性を評価する必要があります。健全性の評価は、専門知識を有する技術者が現地調査や材料試験を行うことで非常に正確な結果を得ることができますが、計画段階において効率的に把握するためには、過去の耐震診断時の調査結果を用いるなど、既存のデータを活用することもまた有効です。

#### (計画策定段階の判定)

- ・旧耐震基準である昭和56年5月31日以前のコンクリート造の建物については、耐震診断の結果に基づき、コンクリートの圧縮強度が $13.5 \text{ N/mm}^2$ 以下のもの、及び圧縮強度が不明なものは「要調査」建物とし、試算上は改築として算定します。
- ・旧耐震基準の鉄骨造や木造等の建物については、現地調査結果で判断し、建築後40年が経過し、かつ腐食や劣化の著しいものは「要調査」建物とし、試算上は「改築」とします。
- ・上記以外は試算上の区分を「長寿命」とします。

#### (3) 躯体以外の調査方法

躯体以外の健全度の把握は、建物ごとに劣化状況調査票を作成し、躯体以外の健全度を把握します。

建物ごとの屋根・屋上、外壁、内部仕上げ、電気設備、機械設備の劣化状況や改修工事の時期を把握し、評価を行います。

(4) 評価基準

目視による評価【屋根・屋上、外壁】

	評価	基準
<p>良好</p>          <p>劣化</p>	A	概ね良好
	B	部分的に劣化（安全上、機能上、問題なし）
	C	広範囲に劣化（安全上、機能上に不具合発生の兆し）
	D	早急に対応する必要がある （安全上、機能上、問題あり） （躯体の耐久性に影響を与えている） （設備が故障し施設運営に支障を与えている等）

経過年数による評価【内部仕上げ、電気設備、機械設備】

	評価	基準
<p>良好</p>          <p>劣化</p>	A	20年未満
	B	20～40年
	C	40年以上
	D	経過年数に関わらず劣化事象がある場合

(健全度の算定)

健全度とは、各建物の5つの部位について劣化状況を4段階で評価し、100点満点で数値化した評価指標です。①部位の評価点と②部位のコスト配分を下表のように定め、③健全度を100点満点で算定します。

①部位の評価点

評価	評価点
A	100
B	75
C	40
D	10

②部位のコスト配分

部位	コスト配分
1 屋根・屋上	5.1
2 外壁	17.2
3 内部仕上げ	22.4
4 電気設備	8.0
5 機械設備	7.3
計	60

③健全度

$$\text{総和（部位の評価点} \times \text{部位のコスト配分）} \div 60$$

※100点満点にするためにコスト配分の合計値を割っています。

※健全度は、数値が小さいほど劣化が進んでいることを示します。

建物情報一覽表

: 築50年以上  : 築30年以上 基準 2019  
 : 概ね良好  : 広範囲に劣化  
 : 部分的に劣化  : 早急に対応する必要がある

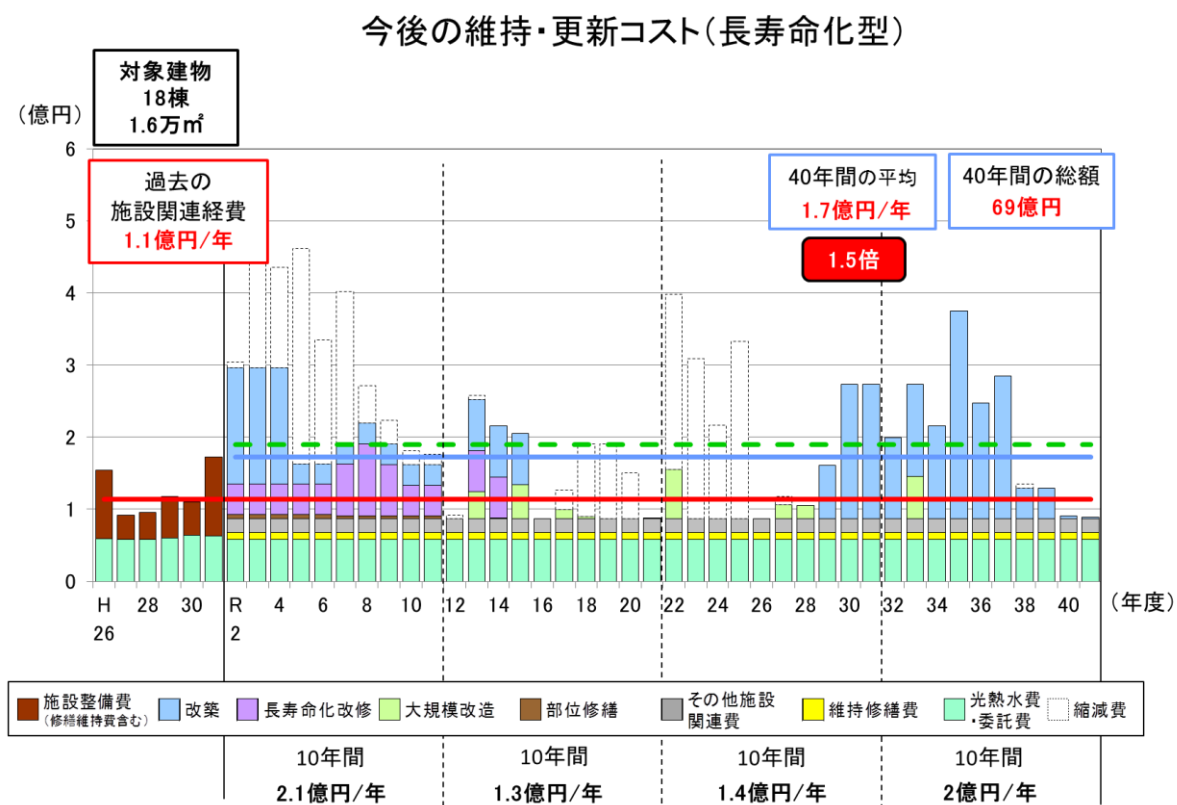
通し 番号	学校 調査 番号	施設名	建物名	棟番号	固定資 産台帳 番号	用途区分		階数	延床 面積 (㎡)	建築年度 西暦 和暦	築年 数	構造躯体の健全性				劣化状況評価					備考		
						学校種別	建物用途					耐震安全性	調査 年度	圧縮 強度 (N/mm <sup>2</sup> )	長寿命化判定 試験上 の区分	屋根・ 屋上	外 壁	内 部 仕 上	電 気 設 備	機 械 設 備		健全度 (100点 満点)	
1	174	円田小学校	校舎	1		小学校	校舎	RC	2	1,998	1970	S45	H18	13.4	要調査	A	C	C	C	C	C	45	
2	174	円田小学校	体育館	4		小学校	体育館	S	1	560	1975	S50	H18	-	長寿命	B	A	B	C	C	C	73	
3	174	円田小学校	プール	5		小学校	その他	W	1	76	1976	S51	-	-	長寿命	C	B	C	C	C	C	50	
4	175	平沢小学校	校舎	1		小学校	校舎	RC	2	1,694	1968	S43	H18	15.7	長寿命	B	B	B	C	C	C	66	
5	175	平沢小学校	体育館	4		小学校	体育館	S	1	540	1967	S51	H18	-	長寿命	B	B	C	C	C	C	53	
6	175	平沢小学校	プール	5		小学校	その他	W	1	62	1972	S47	-	-	長寿命	C	B	C	C	C	C	50	
7	176	永野小学校	校舎	1		小学校	校舎	RC	2	1,912	1971	S46	H18	17.9	長寿命	A	B	C	C	C	C	55	
8	176	永野小学校	プール	6		小学校	その他	W	1	70	1975	S50	-	-	長寿命	C	B	C	C	C	C	50	
9	176	永野小学校	体育館	7		小学校	体育館	S	1	1,201	1991	H3	-	-	長寿命	C	B	B	C	B	C	68	
10	176	永野小学校	特別実習棟	8		小学校	校舎	RC	3	703	1991	H3	-	-	長寿命	C	B	B	B	C	C	68	
11	171	宮小学校	校舎	1		小学校	校舎	RC	3	2,391	1973	S48	H17	16.8	長寿命	D	A	D	D	C	C	39	
12	171	宮小学校	プール	2		小学校	その他	W	1	72	1976	S51	-	-	長寿命	C	A	C	C	C	C	57	
13	171	宮小学校	体育館	5		小学校	体育館	S	1	964	1986	S61	H17	-	長寿命	B	C	C	B	B	B	52	
14	172	遠刈田小学校	校舎	1		小学校	校舎	RC	2	1,419	1960	S35	H16	11.4	要調査	C	C	C	C	C	C	40	
15	172	遠刈田小学校	特別実習棟	4		小学校	校舎	RC	3	1,068	1981	S56	H16	-	要調査	D	C	C	C	B	B	46	第1次診断により実施
16	172	遠刈田小学校	体育館	6		小学校	体育館	S	1	585	1967	S42	H16	-	長寿命	C	B	C	C	C	C	50	
17	172	遠刈田小学校	プール	7		小学校	その他	W	1	76	1979	S54	-	-	長寿命	C	B	C	C	C	C	50	
18	K026	学校給食共同調理場	共同調理場	1		給食センター	給食センター	RC	2	596	1985	S60	-	-	長寿命	C	C	C	B	B	B	49	



### 3-6 今後の維持・更新コスト（長寿命型）

本計画対象の建築物の目標耐用年数を80年として、適切な時期に大規模改修や長寿命化改修を実施することで、今後40年間の維持・改築コストは総額69億円となり、従来型管理の場合と比較して約7億円の経費削減になります。また直近10年間にかかる平均額は2.1億円となり、従来型管理と比較して1.2億円減となることで、コストの平準化が期待できます。

大規模改修や長寿命化改修等の実施にあたっては、その時の財政状況に応じた合理的な対策を検討して、経費削減に向けた柔軟な取組みを実施していく必要があります。



---

## 4 学校施設整備の基本的な方針

### 4-1 整備に係る基本的な各方針

#### (1) 長寿命化計画の基本方針

蔵王町公共施設等総合管理計画の公共施設等の管理に関する基本的な考え方を踏まえ、計画の基本方針は以下の3つを基本方針とします。

##### ①安全性の確保

点検や健全度調査の結果、危険性が認められた施設については、優先度を踏まえながら計画的な更新・改修・解体等を検討します。また、災害発生時の機能保持も含めた安全・安心な学校づくりを目指します。

##### ②耐用年数の延伸

点検や予防保全の結果を踏まえて改修を実施することにより、施設の劣化進行を遅らせ、目標耐用年数80年まで使用できるように建物の健全性を回復させます。

##### ③時代に即した施設機能の充実

防災機能強化やユニバーサルデザインの考え方の導入、バリアフリー化の推進、情報教育推進のためのICTの整備等、児童・生徒・教職員の教育環境向上を考慮した施設機能の充実を目指します。

---

## (2) 改修等の基本的な方針

### ①長寿命化の方針

中長期的な維持・改築等に係るトータルコストの縮減・予算の平準化を実施するため、適切な時期に大規模改造や長寿命化改修を実施することを前提に、すべての建築物の耐用年数を80年とします。

しかし、建築後50年を経過し、かつ老朽化が著しい建物については、長寿命化を実施したとしてもすぐに耐用年数が到来してしまうことで、財政負担が増加する懸念があるため、費用対効果を検証しながら、長寿命化改修実施の有無やその他の対策方法を検討します。

### ②目標耐用年数、改修周期の設定

本町の学校施設においては、前述した長寿命化の方針に従い、長寿命化改修の実施が適当と判断される施設については、建築後80年まで使用することを目標に大規模改造を建築後20年と70年、長寿命化改修を建築後50年で実施していくことを基本とします。また、長寿命化改修を実施しない施設についても、現状のまま日常修繕や大規模改造で対応し、80年まで使用することを目標とします。

## 4-2 基本的な方針を踏まえた施設整備の水準

### (1) 改修等の整備水準

前述の改修等の基本的な方針で示したように、施設の安全性の確保及び財政負担の軽減・平準化の観点から、適切な時期に長寿命化改修を実施し、目標耐用年数を80年とした施設の長寿命化を図ります。

長寿命化改修では、単に物理的な不具合を直すのみではなく、ライフラインの更新等により、建物の耐久性を向上させ、建物の機能を必要な水準まで引き上げることがを目標とします。

今後の改修に当たってはライフサイクルコストの向上、環境負荷の低減等の観点を取り入れ、下記のとおり耐久性の向上を図ります。

部位	耐久性の向上策
屋根・屋上	躯体や建物内部への漏水を防止し、建物の劣化を抑えるために、防水材を全面的に設置します。防水材の材料は、塗膜防水、シート及びアスファルト防水の中から、最も費用対効果の高いものを選定します。
外壁 内部仕上げ	ひび割れ、浮き及び剥落等の重度な劣化を未然に防止するため、壁面材で部分的もしくは全面的に被覆し、躯体の劣化現象の進行を遅らせます。壁面材の材料は、塗膜仕上げ、モルタル仕上げ及びコンクリート打放し仕上げ等の中から、最も費用対効果の高いものを選定します。
電気設備 機械設備	設備機器は、専門業者による定期点検を行い、消耗部品の交換等により未然に故障を防ぎます。また、機器の更新を行う場合は、費用対効果を検討しながら、主に耐用年数の長さを基準に選定します。

## (2) 維持管理の項目・手法

施設の維持管理のために、改修工事だけではなく、日常的、定期的な施設の点検や清掃を行います。建物の劣化状況を詳細に把握し、より早く異常に気付くことで、それぞれの施設に応じた改修工事内容や、時期を計画的に反映させます。

### 維持管理の項目・手法

維持管理分類	項目	内容	頻度	実施者
日常的な点検	清掃	快適な環境を維持しながら建物の寿命を延ばすため、清掃を行う。	毎日	施設管理者
	日常点検	機器及び設備について、異常の有無を確認する。	毎日	施設管理者
定期的な点検	自主点検	機器及び設備の破損、腐食状況を把握し、修繕の計画を立てる。	周期を設定	施設管理者 施設設置者
	法定点検	自主点検で確認できない箇所や、法的に定められた箇所を点検する	周期を設定	専門業者
臨時的な点検	臨時点検	日常、定期点検以外に行う点検。	故障及び災害時等	施設管理者 施設設置者 専門業者

## 5 長寿命化の実施計画

### 5-1 改修等の優先順位付けと実施計画

#### (1) 改修等の優先順位づけ

改修等の優先順位については、建物の健全度調査による評価点を基準として設定します。また建築年数が50年を超え、劣化が著しく顕在化している建物については、健全性回復のための大規模改造を行います。

その後は、財政状況を考慮したうえで、教育環境の改善や社会的なニーズに対応するための改修を行います。

#### (2) 今後の実施計画

今後5年間の実施計画として、まず令和2年度に老朽化による更新工事として、宮小学校動力盤改修工事と永野小学校揚水ポンプ改修工事を行います。また、トイレ洋式化による利便性・衛生管理の向上、及び防災拠点の強化のため、円田小学校トイレ改修工事を行います。

その他には、全小中学校を対象とした、GIGAスクール構想による教育の情報化推進のためのネットワーク環境施設整備を行います。

令和3年度以降は、健全度調査による優先順位付けにより、躯体に著しく影響を及ぼす雨水の浸透を防ぐための改修工事を実施します。令和6年度には永野小学校校舎長寿命化改修工事のための設計業務を実施します。

これに加え、新たに確認された劣化や、その他、緊急的な工事が必要となるものについては、適宜、実施計画を見直すことで対応していきます。

R2		R3		R4		R5		R6	
事業名	事業費	事業名	事業費	事業名	事業費	事業名	事業費	事業名	事業費
公立学校情報通信ネットワーク環境施設整備委託業務	30,446	宮小学校屋上防水改修工事	11,410	遠刈田小学校特別実習棟屋上防水改修工事	5,290	円田小学校外壁塗装改修工事	14,900	永野小学校長寿命化改修工事設計業務委託	8,000
小学校冷房設備増設工事	7,700								
円田小学校トイレ改修工事	10,970								
平沢小学校動力盤改修工事	1,016								
永野小学校揚水ポンプ更新工事	3,476								
宮小学校動力盤改修工事	1,065								

---

## 5-2 長寿命化による効果

対象となる全ての施設の適切・良好な保全の視点から、効率的な維持管理によりコスト削減・平準化を図ることで、下記のとおり様々な効果が期待できます。

### ①保全計画の優先順位を明確化

健全度調査に基づく優先順位づけにより、計画的な修繕・改修を実現し、部分的な補修の無駄をなくします。

### ②施設の安全確保

早急な対応が必要である健全度評価のD判定部位を把握し、改修を実施することで、常に安全・安心な施設であるよう整備していきます。

### ③資産の有効活用

施設を長く使い続けることで、改築に比べて工事費の縮減や工期を短縮でき、財政面・環境面での効果が期待できます。

### ④最適化に向けた時間の確保

改築時期を先に延ばせることで、児童生徒数の変化や財政状況、地域の実情に応じた施設の在り方を慎重に議論することができます。

---

## 6 長寿命化計画の継続的な運用方針

### 6-1 施設情報の一元管理と共有化

蔵王町公共施設等総合管理計画の基本的な方針に従い、維持管理・改修工事履歴に係る施設情報の一元管理を行い、情報共有に努め、その施設情報を本計画の見直しに活用します。また、経費削減に向けた先進的な技術や情報等を積極的に取得し、それを活かす取組みを検討します。

### 6-2 推進体制の整備

本計画は学校施設を所管する教育委員会が中心となり推進しますが、蔵王町の公共施設であることを前提として認識し、蔵王町公共施設等総合管理計画との連携を図りつつ、分野横断的に計画の進捗状況を管理していきます。

### 6-3 フォローアップ

本計画は、40年という長期の計画であることから、教育環境の変化や、児童生徒数の推移、社会情勢等の変化に柔軟に対応する必要があるため、原則5年ごとにPDCAサイクルによる随時見直しを行い、実現性と実効性を維持します。

